

第8回学術総会に寄せて – 医療での危機管理の最先端

国際予防医学リスクマネジメント連盟(URMPM)
日本予防医学リスクマネジメント学会(JSRMPM)
理事長 酒井 亮二

日本予防医学リスクマネジメント学会第8回学術総会が3月11日～12日に東京で開催されます。東京での開催は2002年度と2004年年度について3回目ですが、5年ぶりの開催の運びとなりました。

第8回総会テーマ選択の経緯は、臨床で最も高度なリスク管理・危機管理を必要とする救急医療の現場での安全対策を本格的に検討することが、今日の日本の医療安全の最も重要な課題であるという学会員から声によります。それらを受けて、第8回学術総会の開催者として東京で最も優れていると高い評判を得ている日本大学板橋病院救急部にお願いに上がり、本分野で日本を代表する方々のプログラムを提示いただきました。

最近の日本では「安全と安心」が社会の重大なキーワードとなっているにもかかわらず、医療に限らず、食品汚染・建築事故・金融危機・麻薬汚染・虐待・自動車などの各種製造業での事故といった広範な分野で深刻なリスク問題が次々と発生しています。過去10年における日本の歴史は不祥事と事故の連鎖そのものです。

世界的に日本ほど安全と安心を最優先している社会はありません。しかし、以上の惨状は日本社会の底辺でリスク意識や危機意識が年々低下していることが主因である、との日本における識者の叫びが昔から届いています。いかに安全が大切で、どのように危険から身を守るかの基本教育が社会で軽視されている、とのことです。「人が宝を基本とすることによって、安全技術は初めて安全と安心の世界を実現できる」ことが、物資に極めて恵まれ、情報洪水に浸っている日本の豊熟社会では理解できにくくなっており、危険への感覚がマヒしている証です。栄華を極めた様々な大国での崩壊の始まりを彷彿とさせるもので、日本崩壊がこのような側面でも加速しているようです。

きしくも、第8回学術総会の主たる狙いは、医療現場でのリスク意識と危機意識を向上し、それを基礎として高度な安全対策を導き、安全で安心な医療を実現することです。総会から多くの事を勉強させていただく機会を得られますことを、会を代表して厚く御礼申し上げます。